

機械定植で問題になるタマネギ乾腐病はセル成型トレイへのトリフルミゾール水和剤の灌注で予防できる					
[要約]トリフルミゾール水和剤100倍液をセル成型トレイのタマネギ苗に灌注処理(0.5リットル/トレイ)することで、乾腐病の発生を抑制できる					
¹ 上場営農センター・研究部（畜産・果樹研究担当） ² 農業試験研究センター・有機・環境農業部			連絡先	¹ 0955-82-1930 (uwabaeinousenta@pref.saga.lg.jp) ² 0952-45-8808 (nougyoushikensenta@pref.sagalg.jp)	
部会名	¹ 上場営農 ² 野菜	専門	病害虫	対象	タマネギ

[背景・ねらい]

数年前から中晩生タマネギで乾腐病の被害が問題になっている。本病に対して、地床苗に対する殺菌剤の根部浸漬処理による予防対策が広く普及している。一方、規模拡大にともなって増加している機械定植専用のセル成型トレイ苗に対してはベノミル水和剤の培土混和处理による予防対策があるものの、効果が不安定なため普及には至っていない。そこで、セル成型トレイ苗に対するより簡便な薬剤処理法を見い出す。

[成果の内容]

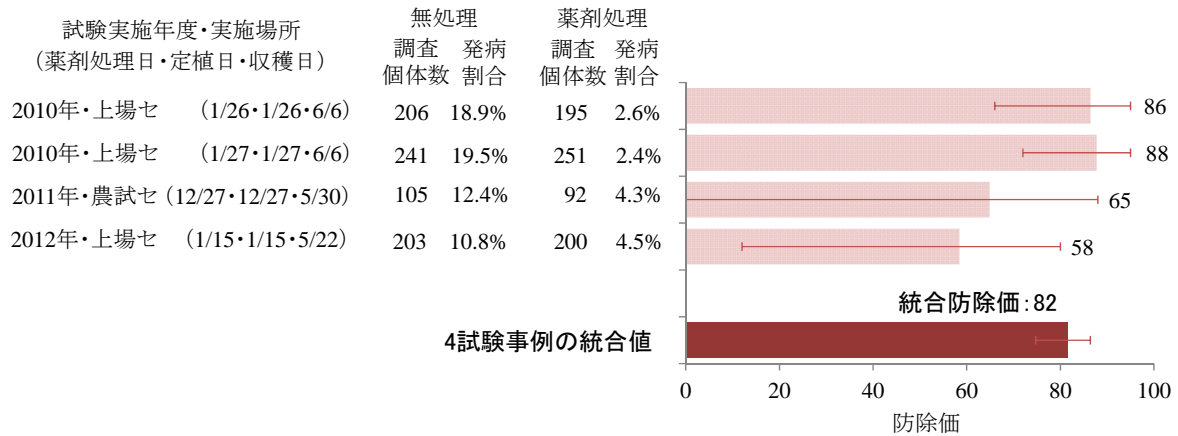
1. トリフルミゾール水和剤 50 倍液および 100 倍液をトレイあたり 0.5 リットル灌注処理することで、両希釈倍数ともに無処理区の場合の約 2 割に発生が抑制される（図 1）。
2. 本剤 50 倍液および 100 倍液を灌注処理した場合の収量ならびに M サイズ（鱗茎径 6～7cm）以上の割合は無処理と同程度で、収量への悪影響は認められない（データ略）。
3. 以上のことから、セル成型トレイ苗にトリフルミゾール水和剤 100 倍液を灌注することで、タマネギ乾腐病を予防できる。

[成果の活用面・留意点]

1. ジョウロを用いてセル成型トレイあたりに 0.5 リットルを灌注する。
2. 定植直前の処理では機械定植時に根鉢が崩れるので、灌水を兼ねて前日に処理する。
3. 本剤 100 倍液 0.5 リットル/トレイ処理の 10 アールあたりの経費は 2,626 円である（薬剤価格は県内小売価格を参照，10 アールあたり苗数：27,000 本，同トレイ数：61，同薬液量：30.5 リットルとして算出）。

[具体的なデータ]

<トリフルミゾール水和剤50倍液のトレイあたり0.5リットル灌注処理による発病抑制効果>



<トリフルミゾール水和剤100倍液のトレイあたり0.5リットル灌注処理による発病抑制効果>

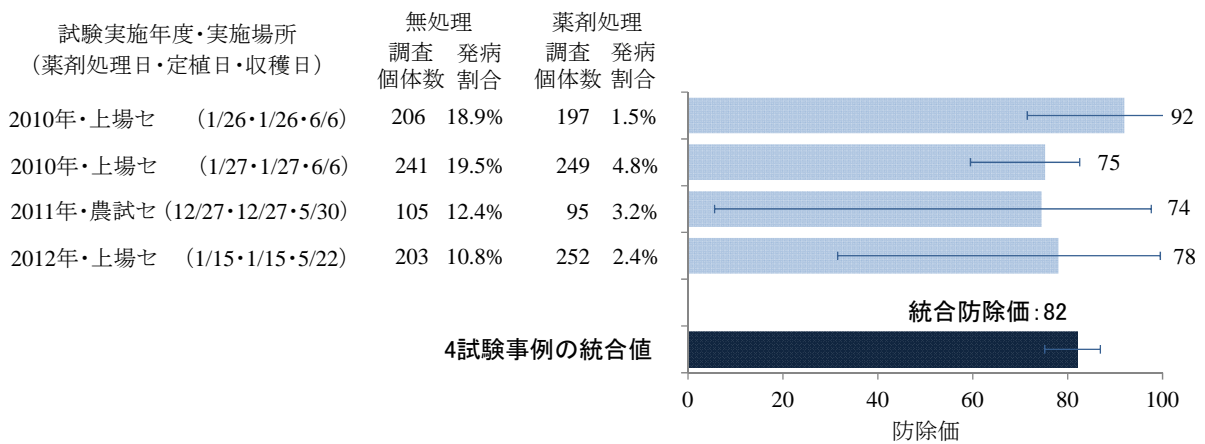


図1 セル成型トレイ苗にトリフルミゾール水和剤懸濁液を灌注した場合の乾腐病発病抑制効果

- ※ 上場営農センター(唐津市)で得られた試験が3事例, 農業試験研究センター(佐賀市)で得られた試験が1事例.
- ※ 本剤50倍および100倍液をセル成型トレイ苗にジョウロを用いて0.5リットル灌注処理した後, 定植した. 収穫後に葉および根を切断して貯蔵庫に搬入した. 9月上旬までの乾腐病の発生を経時的に調査し発病割合を算出した.
- ※ 図中の数値は防除値を示す. 防除値 = $(1 - \text{薬剤処理区}の\text{発病割合} / \text{無処理区}の\text{発病割合}) \times 100$
- ※ 各カラムの線は防除値の95%信頼区間を示す.
- ※ 一番下のカラムは調査個体数および発生状況に応じて重み付けを行って統合解析(メタアナリシス)した値を示す.

[その他]

研究課題名: 上場地域の中晩生タマネギにおける貯蔵病害の多発生要因の解明と防除対策の確立

予算区分: 国庫, 県単

研究期間: 2010~2013 年度

研究担当者: 正司和之, 古川智博, 山口正洋 (1佐賀県上場営農センター)

稲田 稔 (2佐賀県農業試験研究センター)